

令和2年度 部活動に係る活動方針

千葉県立幕張総合高等学校

教育活動としての部活動の意義

学校教育の一環として、教育課程との関連を図り行われる部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものである。

千葉県立幕張総合高等学校が目指す部活動とは

「幕総生徒が目指す日本一を叶えるための活動」

- ・全国大会や国際大会でのこれまでの実績を基盤として、全国大会での活躍を目指す。
- ・個人が持つ能力を最大限に伸ばすことにより、生涯をとおして活用できる卓越した技能・知識の習得を目指す。
- ・自主性、協調性、責任感、連帯感を育成し人としての成長を目指す。
- ・互いに競い、励まし、協力する中で友情を深め、バランスのとれた人間関係力の育成を目指す。
- ・教科学習とのバランスのとれた活動計画を推進し、生徒が志望する進路実現を目指す。
- ・全職員の共通理解のもと学校全体として指導・運営に係る体制を目指す。

部活動の活性化に向けて「基本的な考え方」

- ・生徒が自主的・自発的に参加する部活動では、生徒自身が設定をした目標に最適な活動計画を保護者との協力のもと顧問（学校）が作成する。
- ・スポーツ医・科学など科学的な根拠を基盤とする活動計画を作成する。
- ・進路実現に向け、大学入試に必要な外部試験などの受験機会は、部活動ごとに年間計画を立てる。
- ・各部活動が持つ教育的財産を地域へ提供し関わる事で、生徒の資質・能力の育成に役立てる。

学校としての取組「適切な運営体制を整える」

- ・目標や生徒数に応じた効率的な勤務体制づくりを心掛け、校務全体のバランスに配慮して人的配置を行う。併せて、勤務時間管理と顧問の負担が過度にならないよう努める。
- ・効率的な施設使用計画を策定する。
- ・部活動毎に活動目標を定め、活動計画及び活動実績を提出・公表する。原則として、活動計画は年間（または半期）単位で、活動実績は毎月単位とする。
- ・指導方法や安全対策等の研修機会を通じて、指導者としての資質向上に努める。
- ・経費の徴収や会計報告の作成等、会計処理に係る事項は部活動コンプライアンスに則り、適切に対応し説明責任を果たせるようにする。
- ・保護者や関係団体等との連携を図りながら、地域に信頼される学校づくりの一環としての活動に取り組む。

「効果的な活動の推進」（安全で充実した活動とするため）

- ・常に目標の実現に向け、適切で最適な指導方法を追求するための研修・研究に努める。
- ・生徒の心身の健康管理や事故防止に万全を尽くすとともに、体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。
- ・活動目標や特性を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な練習方法の積極的な導入等により、短時間で効果が得られる指導を行うことができるよう努める。
- ・発達段階や能力・適性を見極めるとともに、健康状態を確認しながら個に応じた指導を行う。
- ・活動計画策定への参画を含め、生徒の主体的活動としての幅を一層広げる。

「適切な休養日等の設定」（バランスのとれた生活や成長）

- ・学期中は、少なくとも週1日の休養日を設ける。年間をとおして100日程度の休養日を各部動の実態に応じて設ける。週末に大会等に参加した場合は、他の日に振り替える。
- ・長期休業中は、学期中に準じた扱いとするが、十分な休養を取ることができるよう、まとまった休養期間を設ける。
- ・1日の活動は、平日は3時間程度とし、週末を含む学校の休業日は4時間程度とする。
- ・各部活動の実態に応じて、週単位以外にも月間、年間（または半期）単位での活動頻度・時間の目安を定める工夫も可とする。

☆多様な部活動の実態を踏まえ、方針に示した基準を超える場合の条件整理

【基準とされる休養日を設定できない場合】

- ・各部活動が活動目標に沿って活動計画の中で定め、生徒と保護者の承認を得た場合。
- ・設定された休養日に止むを得ず行事等が入り、振替が不可能な場合。

【基準とされる時間を超えて活動する場合】

- ・各部活動が活動目標に沿って活動計画の中で定め、生徒と保護者の承認を得た場合。
- ・大会、合宿、交流行事等、年間計画に位置付けられた特別な活動の場合。
- ・安全対策上の配慮や活動機会の公平性担保等の事情で止むを得ない場合。
- ・必要不可欠な練習方法・内容が最大限効率化に努めても基準に収まらない場合。

「部活動の環境整備」（部活動の新たな可能性に期待）

- ・各分野に関する専門的指導を受けられるよう、外部人材の積極的活用を進める。
- ・生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる部活動等の設置を検討する。
- ・学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な活動のための環境整備を進める。
- ・生徒や顧問の過度な負担とならないよう、参加する大会等の精査を進める。
- ・高体連が推進する「プラスワン活動」の趣旨を踏まえ、文化部活動も併せて積極的に取り組む。
- ・スポーツを含め文化活動に欠かせない「楽しむ」という観点を踏まえ、多様な楽しみ方に応え得る仕組みや指導者の柔軟な対応策を検討する。
- ・各部活動の練習計画は、毎年度評価し改善に努める。